



課題研究 I 特別講義(1年総合自然科学科)

12/1(火)、1年総合自然科学科の生徒が、甲南大学フロンティアサイエンス学部の藤井敏司教授を招いて、理系のプレゼンテーションに関する講義を受けました。講義の中では、いたるところにポイントがあり、生徒はメモを取りながら、熱心に説明を聞いていました。また、模擬課題研究発表会の生徒作品も題材として、指導助言をいただいたり、修正前後を比較したりするなど、生徒は、少しの工夫でも大きく印象が変わることに驚いていました。今後は、班別にテーマを設定して、ミニ課題研究に向けて取り組んでいきます。



甲南大学リサーチフェスタ

12/20(日)に、74回生2年総合自然科学科の生徒が、甲南大学リサーチフェスタに参加し、課題研究の研究発表を行いました。今回はオンラインでの実施となり、全体では250件以上の発表が行われました。74回生には初めての校外研究発表であり、すべての研究班が、パワーポイントを使って、研究成果を発表しました。発表後は、他校生や大学生、先生方と質疑応答を行い、研究に関する指導や助言をいただきました。また、他の発表も聴講し、研究の進め方や発表方法などにおいて、多くの気づきもありました。審査の結果、龍野高校では8班の発表のうち、以下の3つのテーマで受賞しました。

審査員特別賞 「牛乳の冷凍保存の可能性を探る」

クリエイティブテーマ賞

「自然災害を克服する術～対塩害～」

ロジカルデザイン賞 「1m標高メッシュデータの可視化～高校グラウンドを3D化する」

SSH 特別講義(関西研修の代替行事)

12/22(火) 京都大学野生動物研究センター

村山 美穂先生

『 ガーナで考える野生動物保全 』

12/23(水) 京都大学 iPS 細胞研究所

長船 健二先生

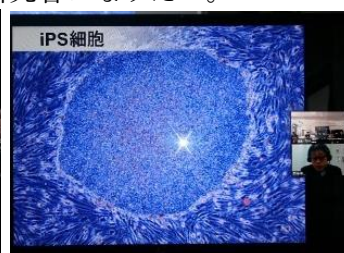
『 iPS 細胞を用いた再生医療の現状と展望 』

〔生徒の感想〕

○ ガーナの印象は、カカオ栽培、森林が広がるであったが、サバンナ地帯で干ばつによる食糧不足、特に動物性たんぱく質が不足していることは知らなかった。現地の気候、風土にあってはいる家畜ということで、大型のネズミの仲間であるグラスカッターに着目したことが素晴らしいと感じた。この企画で、女性の自立を促していることがわかった。ガーナの小中学校での講義を行うことで、将来的な自然環境の保全を目指したりするなど、SDGs 達成に関連する様々な取り組みもされていて素晴らしいと感じるとともに、私自身このように物事を多角的に見る目を養っていきたく強く思った。



○ iPS 細胞を分化させて、ある特定の組織を作りそれを移植して治療するだけでなく、病気の細胞になるメカニズムを解明し、それを妨げる薬の開発にも貢献していることがわかった。現代の医療技術では治療困難な病を治したいという一心でただひたむきに研究を続けていくという姿勢にとっても感銘を受けました。私も長船先生のように誰かの助けになるような研究者になりたい。



京都大学 iPS 細胞研究所提供